

歴史的に見た「身近な地域」の学習

静岡県浜松市立神久呂中学校 野島 恭

1. はじめに～新しい歴史の授業は～

新指導要領では、通史をずるずるべったり学ぶのではなく、原始・古代、中世、近世、近現代という大きなまとまりでつかむこと、授業時数が大きく減った中で、「歴史の流れと地域の歴史」という内容が新しく加わったことが大きな特色です。

新しい歴史の授業は、「一国の正史の物語」を暗記するのではなく、この列島にすむ人たちを中心とする、豊かで多様な事実の因果関係の総体としての人類のあゆみを、多角的にながめ、これからの自分たちの生き方を理性的によりよい方向に導く糧になるものでありたい。今回の改訂を自分の授業に照らしたとき、そんな授業ができたらいいなと思っています。みなさんはいかがでしょう。

2. 新しい「身近な地域」学習の意義と方法

新指導要領では「身近な地域」を、最初の「歴史の流れ」に続いて学習のスキルを学ぶものとして位置づけています。そして、学ぶ時期は、冒頭にこだわらず、歴史学習全体を通して適宜位置づけることになっていて、その地域の歴史教材の特色を生かせる自由裁量が可能ですし、博物館・郷土資料館を積極的に活用することが勧められています。

実は、新指導要領の歴史学習の目標(4)

「さまざまな資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現する能力を育てる」は、通史の暗記に陥りがちな従来の歴史学習にあって、「民主主義の実現」という戦後初期社会科の理念を継承した貴重な原則であるといえます。そして、「身近な地域」学習はその目標を達成する重要な内容として位置づけられています。

ですから、私は「暗記すべき国の歴史がまずあって、それを身近なものにするために、それに関係する郷土の人物や事件を取り上げて顕彰する」という、よくありがちな地域学習ではなく、「地域の具体的なできごと、それも何気ない普通のできごとを調べることで、歴史学習のおもしろさと手続きを学び、全体のようなをより多様に豊かにとらえていく」地域学習を考えています。四つの大きな時代のまとまりごとに具体的な地域事例を用意し、地域の具体的な事象から大きな歴史を眺めるという方法を採用したいと考えています。それ

ぞれの時代の使いそうな事例を、私のネタとして紹介します。(ぜひみなさんのネタも教えてください)

3. 原始・古代のネタ・・・ヤジリを拾いに行こう

レシビ 単元全体の導入で行う

- ①文化財基本台帳で遺跡を調べる(博物館に聞く)。
 - ・どんな地域にも必ず原始古代の事象はある。
 - ・ないところはないと言うこと自体が資料になる。
- ②遺跡に実際に行ってみる。
 - ・縄文遺跡の場合は、石器の表採が可能。
- ③教室に持ち込む。
- ④自分たちで行かせる。採集・記録・考察の手順と方法を教え、自分たちでやらせる。
- ⑤石器からわかる生活を考えさせる。

黒曜石の石刃で、紙をすばっと切ると「おお」と歓声が上がります。歴史全体の導入にも使えます。

古墳を探そう・土器の音を聞こうもお勧め。須恵器と土師器の破片を手に入れて(博物館で貸してもらえますし、けっこう表採できます)、破片どうしをぶつけて音を聞かせる。当時の生活を想像しやすい。

前方後円墳は、どんな小さいものでもヤマト王権との関係を考える貴重な教材になります。地域によっては官符木簡や万葉集東歌・条里制遺構も使えます。

4. 中世のネタ・・・中世の村の風景を復元する

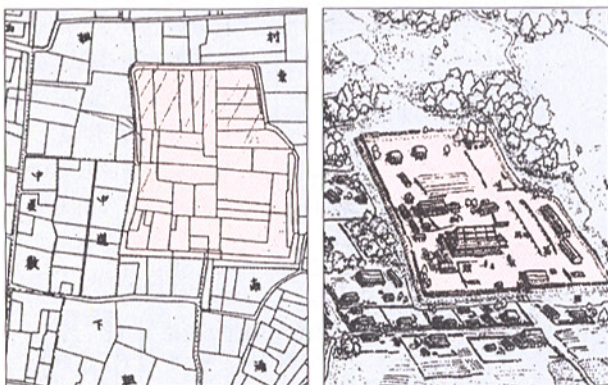
これは、大学時代にフィールドワークでやって、今度学校でぜひやりたいと思って計画していることです。

レシビ 中世の簡単な通史の確認のあと、展開部で行う

- ①地籍図(土地台帳。古いものを字切り簿という)を役所に行き手に入れる。
- ②近代・近世の起源をもつもの(由緒書きで簡単に確認できる)を消去する。(中世以前に由来のある地名が残る)

- ③できれば検地帳や荘園絵図があるともっとよい。登場する地名を地籍簿から確認する。
- ④実際に聞き取りをしてその地名を探す…生徒が自分の祖父母に聞いてくる→一覧にまとめる。
(これが意外と残っているんです。土地のお年寄りに聞くと、「ああ「カクシダ」ね、あそこぞら。(遠州弁)」と言って小さな谷間を教えてくれる。)
- ⑤当時の村を想像復元してイラストにしていく。

↓旧地籍簿から中世の館を復元…浜松市博物館作成資料



高度経済成長で前近代の風景が急速に失われています。それでも、近世の記録はわりとよく残っていて、すぐ探せます。しかしもう一つ前の前近世つまり中世は、ちょうど映画「もののけ姫」の森の世界のような、古層を探すおもしろさがあります。

中世はそれこそ、「中央の正史」が存在しない、地域独自の歴史でしか歴史を語れない時代のような。中央の記録に残った大名や戦争を取り上げるのではなく、ふだんの村の姿を探すおもしろさをぜひ単元の展開部で扱ってみたいと思います。

5. 近世のネタ…地域の祭りの内容と意味を探る

江戸時代の社会構成をイメージするには恰好の教材だと思います。次の近代の学習にもつながります。

- レシビ 幕藩体制まで、江戸時代の基本を学んだあとで、江戸時代の農村(町人)のようすの単元として特設で行う。
- ①秋祭り・田の神祭り・初午など地域の行事を選んで調べる。
 - ②祭りの流れを知る(参加した生徒に発表させる)。
 - ③その流れの意味を調べる(地域で聞き取り)。
 - ④祭りについてどういう記録が残っているか調べる。
 - ⑤江戸時代の地域の文書を探す(博物館・図書館)。
 - ⑥地域に住む人たちの江戸時代の生活をまとめる。

農村部の祭りは、近世中期に現在のように定式化したものが多いようです。また、近世の村落文書は多くの地域で残っています。現在の私たちの生活様式や習

慣、考え方や価値観までもが、この時代から続いているようです(高度成長以後急速に失われていますが)。その地域の七夕・お盆・お葬式・お正月のしきたりなどでもできます。ほかに「街道を歩く」「検地帳・年貢割り付け帳調べ」もおすすめ。

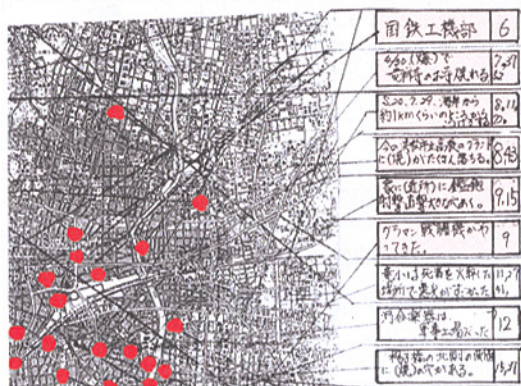
6. 近現代のネタ…ありとあらゆるものが

近代の戦争史…忠魂碑・戦争体験の聞き取り
近代産業史…水車跡調べ(動力の歴史を探れます)
学校史…学制によって設立された小学校はその地域の近代そのものを地域で追えます。

などなど、それぞれの地域にあるいろいろなものを使って、展開を豊富にできます。生徒一人ひとりが自分で見つけたテーマを追究するのもいいと思います。歴史学習全体のまとめとしても使えます

この原稿が活字になるころには、2学期のあわただしい中で、来年使う新しい教科書もきまり、年間計画を作り直す準備に入っているころでしょう。北海道や

↓浜松大空襲の聞き取りを全員で行ったらこんな図ができてびっくり



沖繩など、全国の先生方とそれぞれの地域の多様な豊かな事例を交換できたら、素敵ですね。ぜひ、情報をやり取りしましょう。